南部町立南部中学校　　『気づき　考え　行動　そして感動の教育』

やる気と感動

学校だより　１３号
平成２８年
９月２３日(金)

＝　大きな成果と感動を残して　第6回　輝城祭　閉祭　＝

夏休み前から取り組み始め、短期間ではありましたが集中して取り組みを進め、第6回輝城祭は、延べ人数1，３００名という保護者・地域の皆さん・ＯＢや小学生の応援をいただく中で、大きな成果と大きな感動を残し、無事終了することができました。

学園祭には一人ではできないこと、一人では学べないこと、一人では味わえない感動や達成感がたくさんあると話してきました。今は『第6回輝城祭には、南部中の輝城祭でしか味わうことができない感動や学び、達成感があった。』と評価できます。そして今年も、県内の中学校の先生方に『学園祭を学ぶなら輝城祭を見て学びなさい。』と胸を張って言える素晴らしい内容でした。

三年生の「南中ソーラン２０１６」でスタートしたオープニング。気迫がほとばしるかけ声と、ぴったりと息のあった力強いその演技から、三年生にとって最後の輝城祭にかける強い思いがしっかりと伝わってきました。会場にいる全ての皆さんに、その思いが感動となって伝わったと確信しています。（ちなみに１０月9日開催の南部町民体育祭でもう一度披露しますので、是非ご覧ください。）

詳しい内容や感想については、各学級の通信を見ていただき、子どもさんからも感想も聞いていると思いますので、今年度新たに取り組んだ部分について触れてみます。

美術文芸部の今年の発表は、ライブ（その場での実演）で巨大な絵画を素手で描くというパフォーマンスでした。１０名を超える部員がステージ上を忙しく動き回り、設定時間で仕上げようと頑張っている姿が印象的でした。そしてできあがった作品は、『私たちの町、南部町』というテーマで、富士川、花火、あじさい、竹林が鮮やかに描かれたものでした。作品の素晴らしい出来映えと、その場で描く難しさ、チームワークの良さなども含めて、心から感動できる発表でした。

今年度の体育部門の集団行動は、学年別の発表でした。学年毎に難易度が違い、三年生はさすがと言える内容でした。限られた練習時間の中でしたが、普段の授業から自分たちで創り上げていこうという意識の高さが表れていました。合唱でも同じ事が言えますが、**上級生になるに従って、『難しいことが自分たちの力でできるようになる。』**当たり前の事が、当たり前にできる事が難しく、大切なのです。

今年の閉祭式では、花火の打ち上げに変わり全校応援・全力校歌を実施しました。花火の力を借りないで、自分たちの力で第6回輝城祭を盛り上げ、しっかりと締めくくれたと思います。頑張った自分たちに、これからの自分たちに、支えてくださった方に贈った、素晴らしいエールでした。『全校』『全力』は南部中の大切なキーワードです。『全校応援・全力校歌』は今や南部中の伝統であり誇りです。顔をゆがめ大きな口を開け、一心に大きな声を出す姿に皆さんの**純粋さと素直さ**を感じました。心の宝物です。

普段の活動は見えにくいのですが、『どうやったら輝城祭が成功するか、全校生徒が主体的に動いてくれるか、目指すべきテーマ・活動目標は何がよいか、各取組は順調に進んでいるだろうかなどなど。』常に考え先頭に立って活動してきた生徒会執行部の皆さん本当によく頑張りました。昨年度の輝城祭を超え、更に次のステージへとつなげるテーマ『ＮＥＸＴ』をしっかりと達成できたと思います。

今まで支えていただいた、保護者・家族・来賓・地域の皆様、そして内船歌舞伎保存会の皆様への、

感謝とともに　『ＮＥＸＴ』　次のステージへ

三年生は、進路選択・進路決定・進路の実現へ向け、全力で立ち向かう次のステージが迫っています。一・二年生は、地区・県の新人戦、アンサンブルコンテストが近づいています。また、一・二年生にも*『学力向上』*という大きな課題もあります。　**決して逃げずに『やるべき事はこぴっとやりきろう。』**